一、開会の挨拶

司会者　安　世舟

ただいまより、大東文化大学国際比較政治研究所第二回国際シンポジウムを開催させて頂きます。

今日のテーマは、「東アジアにおける新国際秩序」ということで、一時から五時まで続けさせて頂きたいと思います。

皆様ご承知の通り、冷戦が崩壊した後、ヨーロッパにおきまして、地域統合として、ＥＵが誕生したり、それからＮＡＴＯ及びワルシャワ条約機構間でも、地域安全保障体制が確立されておりまして、新しい国際秩序が形成されつつあります。

ところが、東アジアにおいては、冷戦崩壊後すでに十年になろうとしておりますが、まだ新しい国際秩序が形成されておりません。しかし、ようやく期が熟したのか、皆様ご承知の通り、十月には隣の韓国の金大中大統領が、日本にいらっしゃって、それから中国を訪問なさっております。それから、クリントン大統領が十九日にこちらに来て、韓国に渡っております。また、二十五日には、江沢民主席が日本を訪れます。しかも江沢民主席は現在ロシアに滞在中です。一応これまでの間、このアジアにおいて、日本・中国・ロシア・アメリカ、この四カ国の間に、またそれぞれ戦略的パートナーシップとか、創造的パートナーシップとか、いろんな形で、それぞれの友好関係が築かれているわけです。

ところが、この東アジアにおいて、新しい国際秩序が出来ない理由の一つとして考えられるのが、朝鮮民主主義人民共和国、いわゆる北朝鮮の問題です。冷戦が崩壊しまして、ソ連が崩壊すると、自動的に北朝鮮も消滅するん

ではないかとみんなが期待していたんですね。ところが、期待に反して消滅しないばかりか、北朝鮮の強さと弱さがじつは、東アジアの国際秩序の形成において問題になっているんですね。

弱さとは何かと言いますと、もう皆様もお伝え聞いていらっしゃるように、洪水等の自然災害によって多くの人々が飢饉に苦しんでいることです。もし北朝鮮が崩壊しますと、二千万人の難民が中国・日本に押し寄せてくる可能性があります。ですから、これは、東アジアの国際秩序を大きく攪乱する要因になるわけです。

ところが逆に、北朝鮮の強さとは何かと言いますと、核開発を行っている点です。その他化学兵器、それから皆さんも記憶に新しいと思いますが、八月にテポドン二号の発射でそれは人工衛星と言っておりますが、日本ではそうではないと主張され、こういうことで、日本の場合は平和国家ですから、そういう核兵器を含めまして製造及びその他において、大変自粛していると申しますか、そういう状況のもとで北朝鮮のテポドンが出てきて、いわゆる日本でもそれを防御するために戦域ミサイル防衛の必要性が叫ばれるようになりました。これには大変金が掛かるわけです。自由民主党からはこういうものを持つ必要があると主張がなされ、日本がアメリカの唱道に従ってその計画に参加しようとしているんですね。そうしますと、中国も核兵器を持っております。ミサイルも持っております。ところが、これが出来ますと中国のミサイル及び核が使えなくなるんですね。ということで大変混乱した状況がこれから東アジアで軍事的に続くんじゃないかと思います。それから、もう一つは沖縄問題があります。

こういうふうに、この東アジアの新しい国際秩序を形成していく場合、いろんな攪乱要因がありまして、今日は、これを議題にしまして、それぞれの分野の専門家に短期的及び長期的分析をして頂きまして、二十年後の来たる二十一世紀の十年代におきまして、東アジアはどのような国際秩序が形成されているであろうかということをディスカッションして頂こうと思います。大変前置きが長くなりましたが、こういう主旨で、我々は、今日シンポジウム

を開かせて頂きましたので、皆様五時までご静聴頂きたいと思います。途中にコーヒーブレイクを入れたいと思います。

ではさっそく、基調講演を頂きたいと思いますが、その前に、各先生方を簡単に紹介させて頂きたいと思います。

まず最初に、「アメリカの朝鮮半島政策」について基調講演をして頂くスコット・スナイダー先生です。スコット・スナイダー先生は、アメリカの平和研究所のプログラム・オフィサーをなさっておりますが、この平和研究所というのは、議会が作ったもので政治的に中立機関であるようです。現在、日本国際問題研究所の客員研究員として日本に来ておられまして、東アジア情勢の研究に従事なさっていらっしゃいます。そして先生は、韓国語も大変堪能でいらっしゃいまして、いわゆる朝鮮問題についてのアメリカの政策の専門家でいらっしゃいます。その次に、講演をして頂く浅野好春先生です。「東アジア情勢と日本の対応」ですか、読売新聞社の国際部の記者でいらっしゃいます。浅野先生は韓国の延世大学に一九九一年から一年間留学なさいまして、それから九四年から二年間ソウルの特派員をなさっておりまして、朝鮮半島の問題について現地で取材なさっており、非常に詳しい専門家でいらっしゃいます。その次に、「日米同盟体制と沖縄」を講演して頂くシーラ・スミス先生です。シーラ・スミス先生は、ボストン大学の助教授でいらっしゃいまして、現在、琉球大学客員研究員として沖縄で在外研究生活を送っていまして、沖縄問題と日米安保体制について研究をなさっております。専門は日本の防衛政策です。最後に、村井友秀先生は、「中国の東アジア政策」を担当して頂きます。防衛大学校教授で専門は中国の外交防衛政策です。その他は、皆様ご承知だと思いますが、本学法学部政治学科で国際政治学を担当していらっしゃる五味俊樹先生です。それから、マス・コミュニケーション論を担当していらっしゃる岡村黎明先生です。岡村黎明先生は、皆様ご承知かと思いますが、十年前までは、テレビ朝日のキャスターで有名な方ですね。その後、立命館大学国際関係学部でマス・

コミュニケーション論を担当していらしたんですけれど、我々が三顧の礼を尽くして本学に来て頂いた大変有名な方です。岡村先生は、二年前にボストンに近いところにあるハーバード大学ケネディ・スクールに在外研究をなさったことがあります。ケネディ・スクールは世界各国の上級公務員及びアメリカの政策決定に影響力を持つ研究者や、将来政治家・官僚を目指す大学院生を集めて、国際政治を含めまして専門研究を行っているところです。岡村先生はそこで客員研究員として滞在なされまして、その関係上、アメリカの東アジア政策担当の方々とかなり人脈を持っていらっしゃいます。ですから今日は、パネリストとして四名の基調講演を受けた後、岡村先生から大変おもしろい貴重なお話を伺えるかと思います。それから、最後になりましたが、通訳をして頂く近藤正臣先生です。近藤正臣先生は、我が大東文化大学が誇る、私は、日本一の通訳だと思うんですけれども、それだけじゃなくて、今、大学院で経済学研究科において経済通訳専攻の指導教授でいらっしゃいます。そしてそこを優秀な成績で卒業なされて、今通訳として活躍しているのが渡部富栄さんです。大変長くなりましたが、前置きをこの程度に致しまして、さっそくスコット・スナイダー先生から、「アメリカの朝鮮半島政策」の基調講演を承りたいと思います。